



令和5年度第2回災害廃棄物対策東北ブロック協議会・セミナー

# 仙台市の対応の振り返りと課題

～ 収集運搬の支援経験から学んだこと～

仙台市環境局



- ✓ 仙台市では、平成23年の東日本大震災により、本市のごみ総量の約7年分に相当する約272万トンの膨大な量の災害廃棄物が発生したが、多くの自治体から支援を受け、処理を3年以内で完了した。
- ✓ 支援は、支援でお返しするとの思いから、平成28年熊本地震、平成30年西日本豪雨、令和元年台風など、各地の災害廃棄物処理の支援に職員を派遣してきた。
- ✓ 今回の災害派遣では、片づけごみを含む災害廃棄物を迅速に処理することで、被災者の衛生環境の悪化を防ぎ、早急な被災地の復旧・復興に寄与することを改めて感じた。
- ✓ 支援する立場でありながら、その対応の一旦を担うことで学んだことも多く、やはり、現場でしか学べないことがあると感じた。
- ✓ 本日は、その一部を共有し、今後における東北での災害廃棄物対策について考える一助となれば幸いである。



## 1 . 支援活動の概要

秋田市及びいわき市への災害派遣について

## 2 . 収集運搬体制の構築

収集車両と作業員等の確保  
分別方法の徹底

## 3 . 支援経験から学んだこと

支援側の課題  
受援側の準備

## 4 . 国との連携

今後の災害廃棄物処理における仙台市の対応について



# 1. 支援活動の概要

## 秋田市災害派遣 令和5年7月27日(木)～令和5年8月7日(月)

- 東北地区六都市災害時相互応援に関する協定に基づき、秋田市から収集車及び収集作業員の派遣要請
- 4tﾌﾟﾚｯｶｰ-1台・深ﾀﾝﾌﾟ 1台と職員14名を派遣（調整員2名、作業員12名）
- 広面地区の戸別収集
- 内水氾濫で浸水被害が広範囲で発生し、早期の状況把握が困難
- 畳や家具類、家電が多く、勝手仮置き場分別不良
- 戸別排出状況は分別良好



## いわき市災害派遣 令和5年9月25日(月)～令和5年10月7日(土)

- 東北地方環境事務所からの要請で職員2名を派遣
- いわき市から収集車及び収集作業員の派遣要請
- 2tﾌﾟﾚｯｶｰ-2台・2tﾊﾟｯｶｰ-1台(前半)、深ﾀﾝﾌﾟ 3台(後半)と職員14名を派遣（調整員2名、作業員12名）
- 前半は勝手仮置き場の撤去作業、後半は閉鎖する仮置き場から家電4品目を保管する仮置き場へ運搬
- 河川氾濫による土砂流出、性状は産廃同等
- 土砂混じりの混合物が多く排出状況は分別不良



## 2. 収集運搬体制の構築

### 収集車両と作業員等の確保

災害廃棄物  
大量発生

- ✓ 職員は様々な災害対応に追われている
  - ✓ 排出状況が把握しきれない
  - ✓ ごみ収集車は通常ごみの対応で手が回らない
  - ✓ 処理体制・指揮系統の確立の遅れ
- など

勝手仮置き場が頻発  
片づけごみが堆積

被災自治体のみでは収集運搬が追い付かない

支援要請による確保

### 支援団体

廃棄物処理業者  
建設業協会  
他市町村  
ボランティアなど

収集車両

作業員等

### 分別方法の徹底

ごみの分別と処理方法  
市町村によって異なる

可燃  
不燃  
資源  
粗大

ストーカ炉  
キルン炉  
灰溶融炉

- ✓ 既設の処理施設への搬入可否
  - ✓ 仮置き場からの処理工程
  - ✓ 可能な限りリサイクル
  - ✓ 被災者への分別・出し方の周知
  - ✓ 支援団体で情報共有
- など

既設の処理施設  
(行政・民間・  
周辺市町村)

仮置き場での処理

# 3 . 支援経験から学んだこと

## 支援側の課題

### 被災地での収集運搬

- ✓ 土地勘がない
- ✓ 分別等排出ルールが違う
- ✓ 焼却できるものが違う

### 支援体制の整備

- ✓ 現地の状況に応じた収集車両の準備（パッカー、プレスパッカー、ダンプ）
- ✓ 職員の育成（作業員、調整員）
- ✓ 予算の確保（旅費、消耗品費など）
- ✓ 廃棄物処理業者との連携（車両、人員など）

## 受援側の準備

- 処理計画・指揮系統の確立
- 被災状況・発生量の把握
- 既設処理施設の受入可否
- 戸別収集等の体制整備
- 地図の整理（被災エリア・処理施設・仮置き場等の位置関係）
- 収集車両・人員数の把握
- 産資協等の協力体制の可否
- 災害時における分別・排出ルール
- 支援団体の宿泊先等の斡旋
- 支援団体に分担依頼する業務 など

迅速な意思決定が復旧を加速

支援側

状況に応じた支援体制の整備

受援側

平時の備えと初動の徹底

### 今後の災害廃棄物処理における仙台市の対応について

秋田市災害派遣を踏まえ、要請を受けてからでは遅いと再認識  
**空振りを恐れず、発災直後にいち早く現地に駆け付ける必要があると判断**

東北で発生する災害廃棄物処理について国と対応を協議

「東北地方で大規模災害が発生したときは、**環境省東北地方環境事務所と連携し**、災害廃棄物の発生状況や処理体制の確認を目的に**可及的速やかに被災地入りすること**」について合意（令和5年9月7日）

令和5年9月13日、**いわき市へ先遣職員2名を派遣。**東北地方環境事務所に帯同  
収集運搬体制の構築に助言 **本市の収集車と作業員の派遣を決定**

**東北地方環境事務所と仙台市が連携を図り、被災地の  
早期の処理体制の確立を目的にプッシュ型支援の実行**

ご清聴ありがとうございました